

脇田フィツシャリーナ事例

ひびき海の公園の概要

- * 北九州市若松区にある、マリンスポーツやフィッシングで親しまれている地域
- * 市街地から気軽に行ける、美しい海岸線を市民に身近なリゾートにするため、釣り桟橋、人工海浜、多目的広場、フィッシャリーナなどの整備を実施



脇田漁港フィッシャリーナ

- * 脇田漁港フィッシャリーナは北九州市にある漁港内のボートパーク
 - * 北九州市が設置し、脇田漁協にボートパークの管理委託
 - * 係留可能隻数は108隻(ほぼ100%利用)
 - * 一時係留栈橋(ビジターバース)もあり
 - * プレジャーボートの係留施設以外にも、来訪者の憩いの場となる広場や散策路、響灘を一望できる展望施設があり、交流棟や駐車場(無料)も設置
 - * 駐車場119台(うち身障者用8台)
 - * 交流棟北側94台(うち身障者用7台)
 - * 緑地広場西側25台(うち身障者用1台)

脇田漁港フィッシャリーナ



交流棟



係留状況



駐車場



栈橋の出入口



ビジターバス
出典)ひびき海の公園パンフレット



緑地広場
出典)ひびき海の公園パンフレット 3

汐入の里 (フィッシャーマンズワーフ)

- * 物産館では、響灘で水揚げされた新鮮な魚介類や若松産野菜等を販売
 - * 売上の約8割は地元若松産の農産物
 - * 品薄の場合は商品を市場から調達
 - * 平日約300人(レジカントベース)、土日600~1,000人程度
 - * 駐車場163台(うち身障者用4台)、大型バス11台
- * 地元農産物を使った料理を提供するレストラン、ミニコンサート・結婚式場などに使用できるコミュニティホールも併設
 - * レストランは民間事業者から別会社に委託
- * 北九州市のコンペ形式で設置
 - * 物産館はコンペ指定、レストランや結婚式場は民間提案

汐入の里 (フィッシャーマンズワーフ)



物産館



地元農産物等の売場



売り切れになった魚売場



レストラン



コミュニティホール



駐車場

脇田海釣り公園

- * 響灘の沖合500mで、「船釣り感覚のダイナミックな釣り」を楽しむことが可能
- * 釣り竿の貸し出し、釣りえさ・釣り関連商品の販売あり、手ぶらでも入場可能
- * 利用料金
 - * 1日1,000円(小中学生は500円)
 - * 釣りをしない人は無料
- * 駐車場(民営)
 - * 1日300円(12月~3月は無料)
 - * 約150台(夏期増設)

脇田海釣り公園



商業施設・展望台



釣り桟橋



巡回者



入場管理施設



駐車場とトイレ



釣り場までの桟橋(釣り禁止)

多目的広場・人工海浜・人工磯

* 多目的広場

- * イベント開催や犬の散歩など多様な利用が可能(タイル部分と芝生部分あり)
- * 船の形状をしたモニュメント的なトイレも併設

* 人工海浜

- * 大きな波がなく、小さな子供や家族が水辺で楽しむことが可能
- * トイレや足洗い場、芝部広場も整備

* 人工磯

- * 響灘をのぞむ
長く続く護岸



人工磯 出典)ひびき海の公園パンフレット



多目的広場
(中央の建物はトイレ)



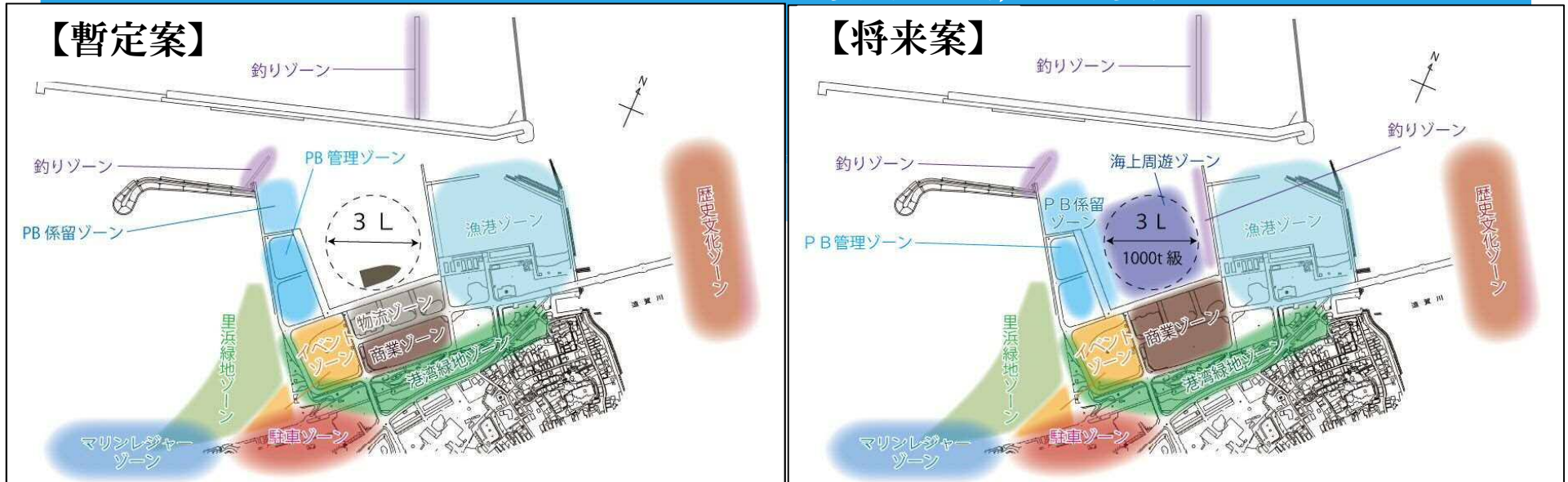
人工海浜

芦屋港でのPB入港ルール(案)

- * 申請者が所有する、登録済みの船舶で、余暇活動に使用するモーターボート、ヨット等の船舶であること。
- * 賠償責任保険(対人・対物・捜索救助費用付保)に加入していること。
- * レーダー反射板を装着していること。
- * 船舶の長さ(登録長)は、決められた基準範囲内であること。
- * 全幅と喫水に関しては、決められた基準以下であること。
- * 全ての船舶は、其々に定められた時間内で入出港を行うこと。
- * 漁船から一定の距離以上(数十～数百m)離れてPBは操業中を航行すること
- * 潜水漁を行う指定の区域内には進入しないこと
- * 沿岸より一定の距離以内は(数十～数百m程度)、所定の航路以外は航行しないこと
- * 共同漁業権内及びその間の海域では、投錨して釣りをしないこと

芦屋港暫定(案)将来(案)のレイアウト

1.『2つの整備 提案』



- 物流機能あり(4号A岸壁図)
- 海上周遊ゾーンなし
- PBは135隻程度受け入れ可能(約54mの波除堤を設置)

【利点】 ①将来案に向けた第一ステップとして、早期事業化が可能

【課題】 ①物流使用時の船舶・運搬車との錯綜による安全対策

- 物流機能なし
- 海上周遊ゾーンあり(緊急輸送船利用可能)
- PBは250隻程度(受け入れ可能(約80mの波除堤設置))

【利点】 ①レジャー港として全体活用
②既存の施設を用いた海上周遊が可能(遊覧、渡船等)

【課題】 ①物流業者が事業を行っている

【共通の利点】 ①直販所設置により収入が見込める
②釣りの利用及び収入が見込める
③観光案内所設置により既存施設への案内が可能(釜の里、歴史資料館等)

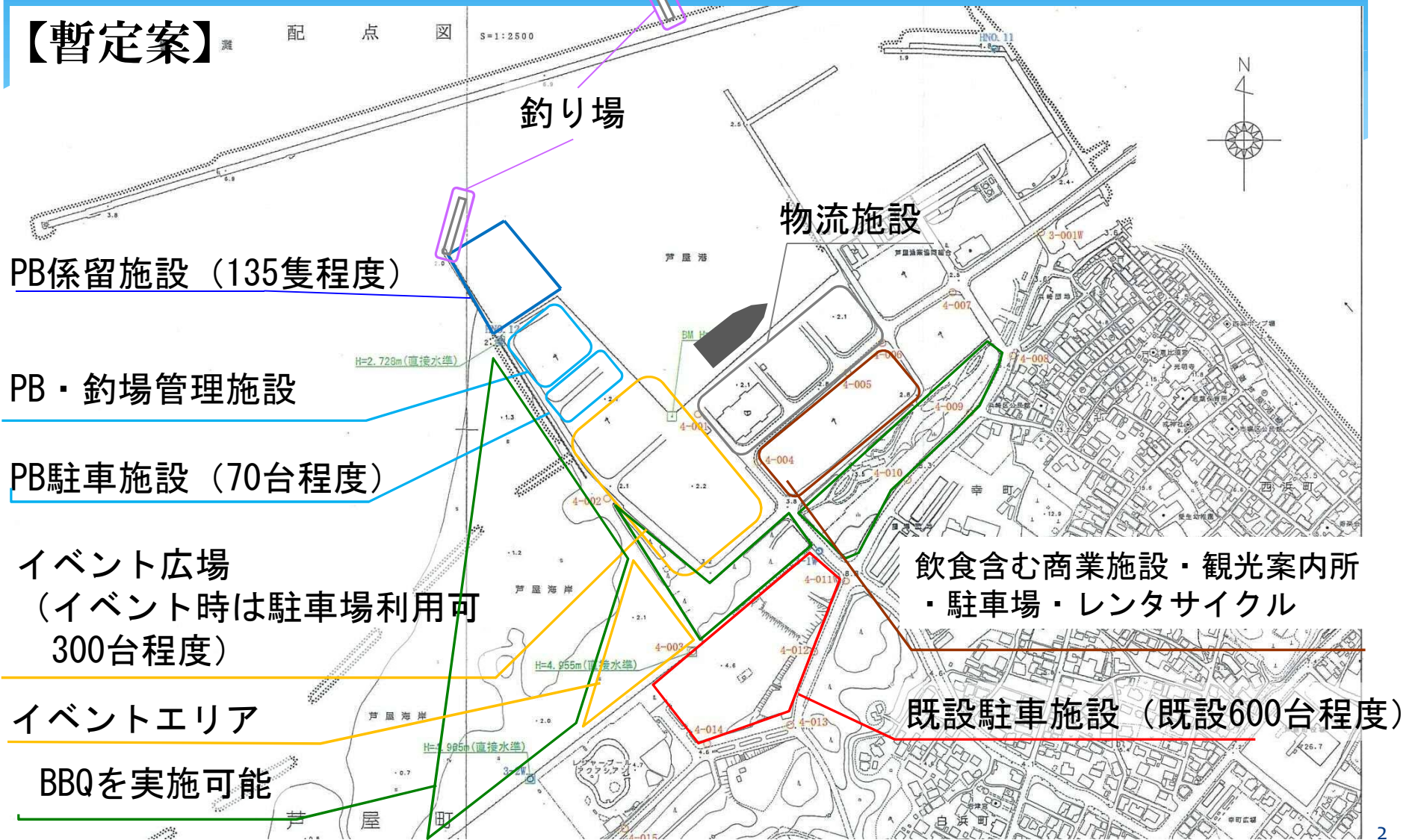
④BBQの利用が可能及び収入が見込める
⑤PB利用収入あり

【共通の課題】 ①交通渋滞発生懸念 ②各施設の整備及び管理運営 ③PB利用者と漁船の錯綜

2. 暫定案レイアウト

【暫定案】

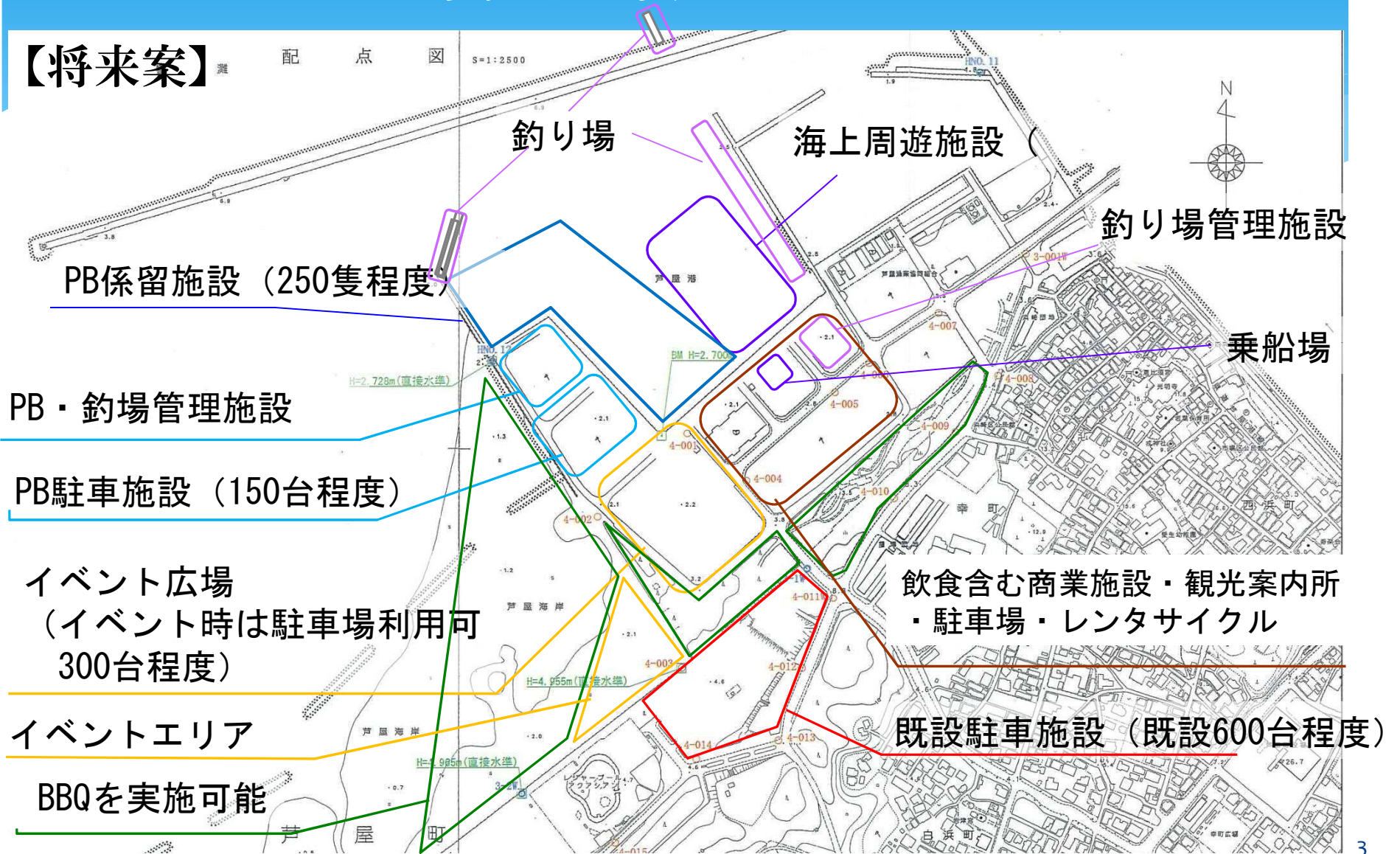
配点図 S=1:2500



3. 将来案レイアウト

【将来案】

配点図 S=1:2500



【暫定案】



※アンケート調査や委員会での検討を結果を踏まえて作成したイメージ図。各施設の事業主体、維持管理は今後の検討課題である。

【将来案】



※アンケート調査や委員会での検討を結果を踏まえて作成したイメージ図。各施設の事業主体、維持管理は今後の検討課題である。

みなとオアシスについて

1. みなとオアシスの概要
2. みなとオアシス設置要領
3. みなとオアシスの事例

みなとオアシスむなかたおおしま

1. みなとオアシスの概要

1-1. みなとオアシス制度

■ みなとオアシス制度

当制度は、みなとにおいて人々の賑わいや交流を創出する施設の内、一定の要件を満たし、地方整備局長等が認定・登録した施設。

国が広報活動、案内看板整備の設置補助をすることで、港を中心とした地域住民の交流促進や観光等活性化に資することを目的とする。

2003年に創設され、平成28年3月5日現在、**全国で88港**が登録されている。

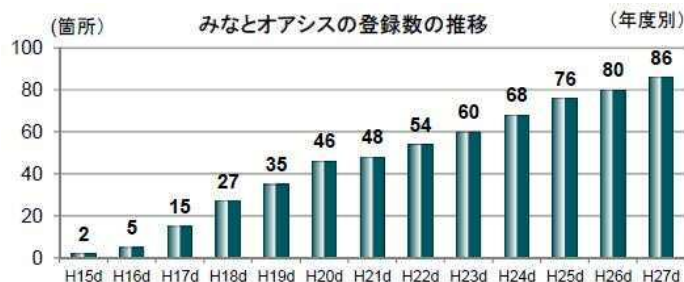


図1 みなとオアシス登録数の推移

九州地方で現在8カ所が登録され、福岡県は1箇所（大島港）のみである

全国のみなとオアシス



図2 全国みなとオアシス地点一覧

1. みなとオアシスの概要

1-2. みなとオアシスの特徴と期待

■ みなとオアシスの特徴

- 地域の方々や観光客等多くの方が気軽に立ち寄り、交流する憩いの場、いわゆる「オアシス」として活用する。
- 地域のニーズを反映し、構想段階から運営・維持管理段階まで、住民の皆さんに参加していただきながら活性化をする。
- みなとオアシスにて定期的に防災訓練をおこなうことにより、防災意識の向上や、みなとオアシスの防災的な役割が認知・浸透される。
- 災害時に利活用可能な施設(情報施設)や空間(公園・駐車場等)を有している。



図3 災害時の「みなとオアシス」のイメージ

出典：国土交通省HP

1. みなとオアシスの概要

1-3. みなとオアシスでの地域活性化事例

■Sea級グルメ全国大会

捕れた海産物や、みなとオアシス近くにある地域で作られている名産品を用いて作られた、“Sea”の要素を含む「Sea級ご当地グルメ」を、全国の「みなとオアシス」から募集して全国大会を開催。

2011年に第1回が「みなとオアシス三原」(広島県)で開催され、今までに7回開催されている。



図4 第1回Sea級グルメ全国大会の様子

第3回Sea級グルメは、大分県の「みなとオアシスかんたん港園」で2013年8月24日(土)・25日(日)に開催

■港弁

- 「駅弁」「空弁」にちなんで、「港弁」が平成22年に八幡浜、平成23年には神戸港で誕生。H26現在、4つの「みなとオアシス」で8種類の「港弁」が認定。
- 「港弁」の中にはデパートのイベントに出品するなど全国に広がりつつある。



認定第1号

鯉ひつまふし弁当 (八幡浜港)



認定第5-1号

港弁 イカ飯 (別府港)

図5 認定された「港弁」の一部

2. みなとオアシス設置(登録)要領

2-1. みなとオアシスの登録要件と運営主体、並びに支援内容

■ みなとオアシスの登録要件

- 地域住民や観光客が交流できる空間を有している。
- 地域住民や観光客に対して地域情報や観光情報を発信する機能を有している。
- 適切な管理運営が行われている。
- イベントの実施等みなとの賑わいを作り出す活動が地域住民参加の下で継続的に行われている。

■ みなとオアシスの運営主体(設置者)

- 港湾管理者 or
- 港湾所在市町村 or
- 港湾管理者の推薦を受けた団体(NPO、他)

■ 国による支援内容

- みなとオアシスのシンボルマークの使用
- 国土交通省・地方整備局などのホームページ等による広報
- 道路地図への掲載や道路標識の設置の支援
- その他みなとの進行に関する各種支援



図6 利用できるシンボルマーク(左)と道路標識例

出典:国土交通省HP

3. みなとオアシスの事例

3-1. みなとオアシスみなかたおおしま①

■関係主体と構成施設

- 登録主体:宗像市
- 運営主体:元気な島づくり事業推進協議会
- 認定主体:九州地方整備局長(平成23年9月7日認定)
- 中核施設:大島渡船ターミナル、緑地公園、
大島海洋体験施設(うみんぐ大島)、駐車場、他
- その他施設:物販・飲食施設

■サービス

【大島渡船ターミナル】

大島徳産品販売、海鮮どんぶり等の販売、レンタサイクル、軽食等の提供

【緑地公園】

毎年8月7日に七夕まつりを開催

【大島海洋体験施設(うみんぐ大島)】

釣堀体験、シーカヤック、海中観察等の体験プログラムの実施



図8 みなとオアシスむなかたおおしまの全体図



図9 宗像大島七夕まつり(左)と、みなとオアシスの体験施設(釣堀)

3. みなとオアシスの事例

3-1. みなとオアシスむなかたおおしま②

■「みなとオアシスむなかたおおしま」の概要

- 福岡県初の「みなとオアシス」として登録(九州地方整備局ないでは7番目)
- 旅客ターミナル(大島渡船ターミナル)や大島海洋体験施設(うみんぐ大島)を核としている。
- セタまつり等のイベントや島体験を通じてまちづくりを振興し、地域振興や観光客誘致につなげることを目的。

■旅客ターミナル(大島渡船ターミナル)の概要

- 大島の中心部に位置する港で、豊富な魚介類、恵まれた自然環境を求めて訪れる観光客の玄関口。
- 福岡県は、平成18年度から大島海洋体験施設の整備に着手し、防波堤や棧橋などの施設整備を行い、平成23年3月末に完成。
- 大島には、宗像市神湊港から、旅客船で約15分、フェリーで約25分、1日7便就航。



図10 みなとオアシスむなかたおおしま平面図(大島港区域)

出典:福岡県HP

3. みなとオアシスの事例

3-1. みなとオアシスむなかたおおしま③

■大島海洋体験施設(うみんぐ大島)の概要

- 平成23年に4月にオープンした公共の海洋体験施設。
- 大島渡船ターミナルから約700m(徒歩約10分)に施設の入口(管理棟)があり、その先は有料区域(釣堀、他)。
- 海上釣堀、釣り教室、シーカヤック等が体験できる他、プレジャーボートステーション等が整備。



図11 うみんぐ大島の海上釣堀

■大島海洋体験施設(うみんぐ大島)の管理運営体制

- 平成23年4月のオープン以来、「株式会社むなかた大島」が管理をしている。
大島地域の漁協及び住民自らが出資者となり、「うみんぐ大島」を効果的に運営することを目指して平成22年4月に設立。
- 指定管理者制度にて管理運営しており、平成25年4月1日～平成27年3月31日までの指定期間(2年間)の管理料は、23,000万円。若干利用者は減少傾向。

年度	総数(人)	防波堤(人)	釣堀(人)	ボートステーション(人)
平成23年度	22,158	6,080	15,868	210
平成24年度	19,196	4,033	15,045	118
平成25年度	17,004	3,573	13,299	132
平成26年度	15,762	4,756	10,937	69

表1 大島海洋体験施設(うみんぐ大島)の利用状況

出典:福岡県宗像市HP

3. みなとオアシスの事例

3-1. みなとオアシスむなかたおおしま④

■ 大島海洋体験施設(うみんぐ大島)の各施設写真と全体平面図(デザイン案)



図12 大島海洋体験施設(うみんぐ大島)の各施設写真

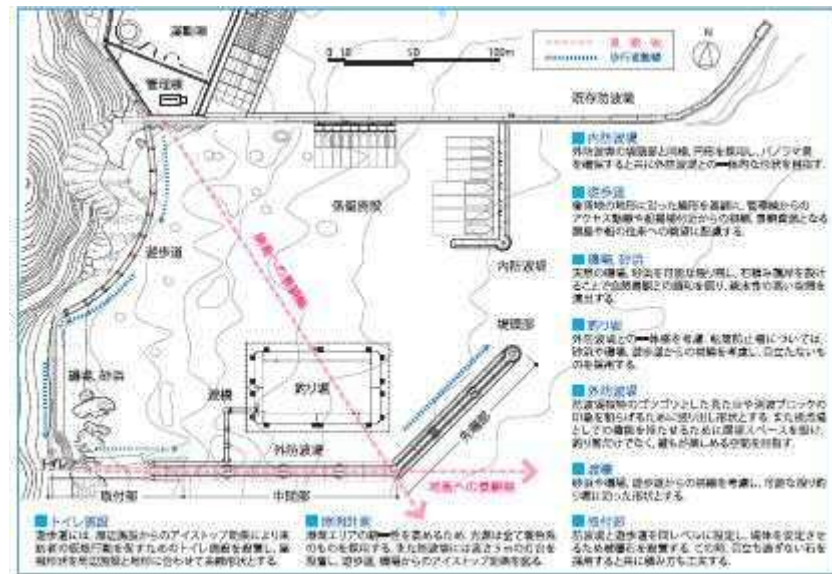


図13 うみんぐ大島 全体最終デザイン案

出典:国土交通省HP